

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200968		
法人名	合資会社 笑顔と思いやりの和		
事業所名	グループホーム和		
所在地	札幌市北区篠路4条8丁目9番1号		
自己評価作成日	2025/11/5	評価結果市町村受理日	2025/12/15

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0170200968-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の隣には公園があり、遊びに来る子供たちの声を聴いたり、四季折々の草木を楽しみながら過ごしています。
利用者様が安心して過ごせるような支援に努め、ご家族とのコミュニケーションを大切にアットホームな環境作りにも努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR篠路駅やバス停も近く利便性がよい住宅地に建つ1ユニット9名が暮らす事業所である。2階建ての2階部分にあり、階下は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所である。事業所の横には小さな公園や遊歩道があり散歩に適した環境にある。共用空間である明るい居間の大きな窓からは篠路神社も見え、自然豊かな景色が眺められるようソファを配置してあり、ウッドデッキは外気浴の場ともなっている。運営推進会議に参加している町内会長から地域の情報や行事の案内をもらい、町内の清掃活動や資源回収に積極的に協力をしている。代表である管理者は利用者の健康管理に携わる看護師でもあり、日々の状態変化を察知し医師と連携を取りながら適切な医療を受けられることで、不安なく暮らすことができ安心であると家族から評価を得ている。また、管理者は新鮮な食材を買いに出かけ、職員が旬の食材を調理し利用者の嚥下状況に合わせて工夫しながら提供している。時折聞こえてくる利用者に対する職員の声かけは優しく丁寧に話しており、日々の様子が利用者の尊厳を守り寄り添ったものだと言われる。職員全員で意見を出し合いモニタリングを行い計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。管理者をはじめ職員が利用者ごとにきめ細やかな支援をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を職員全体で共有し、実践に繋げるように努めている。	利用者の毛筆手書きで作成された3項目からなる理念を事業所の要所に掲示し、日々職員は理念を意識して業務を行っている。年度初めに全員で読み合うほか、職員の採用時や利用者や家族へも契約時に説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会長様に参加してもらい情報交換を行いながら交流を深めている。	町内の資源回収に協力しており、今年度の清掃活動は職員が参加している。運営推進会議に参加している自治会長から地域の情報をもらっている。散歩の際は近隣住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、事業所行事に参加してもらう事で地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで実施。町内会長や地域包括支援員、家族に参加して頂き情報交換を行い、サービス向上に努めている。	会議は毎回1階の小規模多機能ホームと合同で開催しており、地域包括支援センター職員や自治会長と事業所の管理者や職員が参加している。利用者の状況、行事と予定、研修等の報告をしている。	会議に家族の参加を促し、参加できなかった関係者へ議事録を送付する事と、議事録の整理に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネが日頃から連絡を密に取り、サービス向上に取り組んでいる。	事業所の代表でもある管理者やケアマネジャーが提出書類や報告等で連絡をしている。事業所からの質問や相談で解決に結び付けている。保護課の調査依頼に協力をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に定期的に委員会会議を実施また、学習会や日々の申し送りにて情報交換、注意にてケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化のための指針に基づき、身体拘束委員会を3か月に1回開催し対象となる行為の確認を行っている。それらに係る研修では6月に「言葉の拘束について」を学び、スピーチロックにおける弊害を学んだ。次回の研修は12月に行う事としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、虐待に関しても学習会などを実施。職員同士での情報交換、声かけを行い防止に努めている。		

グループホーム和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について必要時、説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書を渡し、不明点や疑問点を確認。十分理解、納得が出来るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には運営推進会議に参加して頂き、意見や要望を外部者へ表せる機会を設けている。	日々の暮らしの中で常に利用者の話を聞き、実現できるものから実行している。家族へは面会時や電話連絡の時に意見をもらい、面会簿や日誌に記録し職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	必要時に管理者が面談をしているが、全体会議や日々の業務中にも意見や提案を聞いている。職員から出された意見や提案で利用者に対する対応の仕方が改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況や個々状況を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人買いの研修は現在控えているが施設内学習会実施時にアンケートを取り職員が働きながらトレーニングしていくことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は控えている。しかし、交流機会が持てる機会(時期)があればサービス向上に取り組みたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期に個人の好みや思いを把握し、要望に何度でも耳を傾け安心出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の情報をしっかり把握し、本人に合わせた声掛け対応を心がけ、安心できるような関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からもしっかりと情報を得て、必要としている支援やサービス利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極め、できることをお願いしながら暮らしをともにするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを取りながら本人の状態変化を細かく報告し相談しながらともに支援していく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の要望が無い限り、どなたでも来訪できるようにしている。	家族が面会に訪れた時は、利用者と居室で気兼ねなく話をしてもらえるよう配慮をしている。馴染みの美容室へ出かけている利用者がある。職員が利用者に頼まれ馴染みの品を買いに出ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が楽しめるレクリエーションを行い、時には自己紹介や雑談を通じて関わり合い、支え合える支援に努めている。		

グループホーム和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族に会った際に状況を確認したり、相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを中心に希望や意向の把握に努めると共に日々の生活からも希望、意向が伝えられる環境作りに努めている。	日々の会話から意向の確認をしている。希望する食事や外出先等を個人記録に蓄積している。アセスメントに活用することもあり、職員で利用者の思いを共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報を得るだけでなく、日々の会話などから得た情報も職員間で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、サービス担当者会議より一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、家族にも相談しながら意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、担当者会議を3か月ごとに開いている。職員全員で評価に関わり、出された意見を計画作成担当者が家族や本人の希望を確認し、短期3か月、長期6か月の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の充実に努めながら申し送りやカンファレンスにて情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人や家族のニーズに対応できるよう、支援やサービスの多機能に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボール箱を提供し、町内会会長の協力の元、公園清掃などを行い楽しみながら暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて家族と相談して適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関が定期的に訪問している。代表でもある管理者は看護師であるため、利用者の体調管理をしているが変化が見られた場合は医師に連絡し受診につなげている。医療情報を記録に残し職員が共有している。	

グループホーム和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の状態、変化を看護師に報告、相談を行い適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供書を渡し、口頭で本人の日常生活状態や注意点などを伝えている。電話での問い合わせも随時受けられるよう努め、病院関係者との関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した指針を元に家族及び往診医を交え話し合い支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における指針」を説明している。常時医療行為が必要になった場合や水分栄養が経口摂取できない場合は医師の判断で家族と相談し適切な移行支援をしている。看取りを行う事もあり利用者に最期まで寄り添い支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々、看護師からの対応の助言を受け、急変や事故に備えている。また、勉強会を行い実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域町内会の方にも連絡ができるよう連携し、協力体制を築いている。	今年は2月に夜間想定火災訓練を行っている。次回は来月12月に地震、火災、水害を想定した訓練を計画している。災害備蓄品を確保している。	災害訓練の記録の整理と、BCPIに基づき必要とされる訓練の計画を立て記録に残すことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを確保できるよう対応に努めている。	認知症の研修は伝達研修を含め全員が参加している。日々の支援の中で気になる言葉かけや対応はミーティング時、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望が表現できるような環境作りや声掛けを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、本人の希望を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は本人が選べる方は選んでもらい、ケア用品も家族に協力してもらい用意し、本人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている。		

グループホーム和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを聞き、食事の準備、片づけの手伝いをしている。	献立は利用者の好みや季節の材料を取り入れ、管理者が毎日買い物をしている。行事食は希望の赤飯、おはぎやバーベキュー、毎月末はケーキを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量と水分量を記録し、状態を把握している。状態に応じ、看護師、職員で相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた声掛けケアを行い、口腔内の清掃保持に努めている。また口腔内の状態に応じて家族に報告し歯科往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態、パターンを把握し、排泄介助や声掛けを行っている。	健康管理表に個別の排泄状況を記録し、見守りや時間帯をみて声かけをしてトイレでの排泄支援を行っている。衛生用品使用の対応も不快感がないよう、対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、往診医、看護師に相談、助言をもらい、対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本入浴日を決めているが本人の状態、希望により日程や時間を変更している。	週2回の入浴は利用者全員が湯船に入り、一人ひとりの好みの湯加減で入浴を楽しんでいる。暖かい季節はシャワー浴などの支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境整備に努め、家族と相談しながらベット位置を決めたり、寝具を用意してもらい安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐ職員が確認できるよう薬事書をファイル化している。また、薬剤師へ内容、用法の確認を行い、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることを把握し、力を活かした役割や楽しみが持てるよう支援している。		

グループホーム和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の状態に散歩などを行いたい「行きたくない」との希望が多い。そのためウッドデッキなどに誘い、外気に触れるよう支援している。	利用者の状況に合わせ、公園の桜を見に行ったり、車椅子を利用する方も公園の散歩に出かけている。通院の際は家族の協力で外出支援をしている。一人ひとりの状態や希望に合わせ、ウッドデッキで外気に触れる支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し所持を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、手紙や電話のやり取りが出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて掲示物を変えたり、ゆっくりテレビ鑑賞が出来るようにソファを配置し居心地良く過ごせる工夫をしている。	事業所2階の共用空間は、居間の大きな窓から篠路神社や町並みが見える位置にソファが置かれ、南側のウッドデッキは外気浴の場となっている。ラジオ体操、ゲーム、食卓テーブルを利用したちぎり絵作成、お気に入りのソファでテレビを見るなど、居心地よく過ごせる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、窓辺に椅子を置き、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人愛用の物を持って来て頂き、家族と相談しながら配置を決め居心地良く過ごせる工夫をしている。	手作り表札の居室はクローゼット、パネルヒーター、温度計、防災カーテンが備え付けられている。利用開始時、使い慣れた家具や家族写真、ぬいぐるみを置きクロスワードパズル、脳トレに取り組んだり昼寝など一人ひとりの思いにそった居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には名札をかけ、トイレもマークで分かるように自立して生活が送れるよう工夫している。		